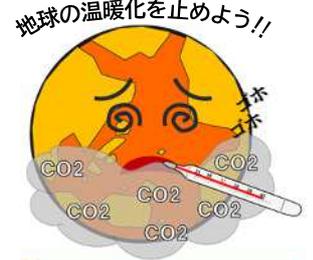


③環境経営目標とその実績・評価



I.【CO2排出量】

2023年9月にSBT認定を受け、エコアクション2.1の環境経営レポートにGHGプロトコルに準じた報告をまとめました。温室効果ガスの自社排出を抑制するだけでなく、サプライチェーン全体として温室効果ガスの排出量削減に努めてまいります。



2023年度環境経営目標と実績

対象項目内容

Scope1:会社で使用する燃料使用によるGHG排出（ガソリン・軽油・灯油）

Scope2:会社で使用する電気使用によるGHG排出（株式会社未来製作所）

Scope3:間接取引によるGHG排出（上記以外の事業活動に関連する他社の排出）

項目	2021年度 (基準年)	2023年度			2030年度	
		実績	削減率 (2021年度比)	評価	排出量実績 目標	
Scope1+2	2,817	2,122	▲24.7%	😊	1,410	
単位 t-co2/年	Scope1	1,791	1,189	▲33.6%	😊	1,410
	Scope2	1,026	933	▲9.06%	😊	0
Scope3	45,667	41,809	▲8.45%	😊	31,967	

(電力のCO2排出係数は、株式会社未来製作所の毎年度の調整後排出係数を使用する（2024年度の係数は、0.529kg-CO2/kwh(R5年12月22日公表)）

2024年度～2030年度 中長期環境経営目標

項目	2021年度 (基準年)	2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標	...	2030年度 目標
Scope1+2	2,817	同等	同等	基準年より 36%減	...	基準年より 50%減
単位 t-co2/年	Scope1	1,791	基準年より 5.0%減	基準年より 7.5%減	...	基準年より 21.3%減
	Scope2	1,026	同等	同等	基準年より 100%減	...
Scope3	45,667	基準年より 4.3%減	基準年より 8.5%減	基準年より 12.9%減	...	基準年より 30%減

環境経営計画に基づき実施した取組内容・評価

主な取組内容と取組結果並びに次年度の取組内容

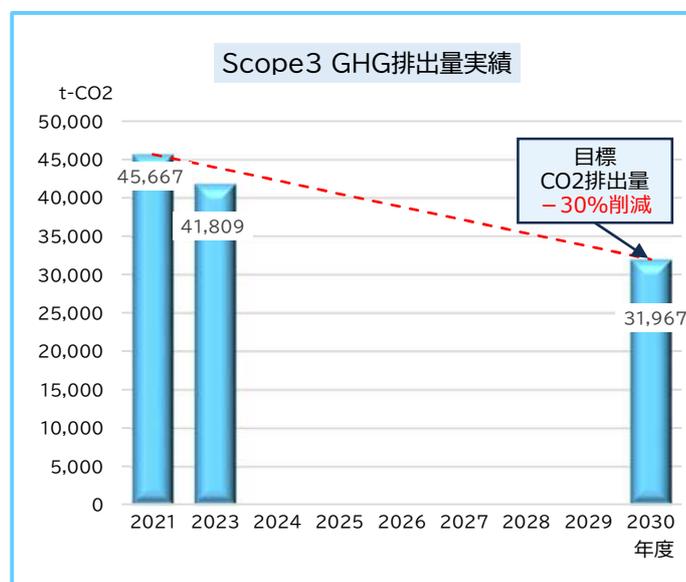
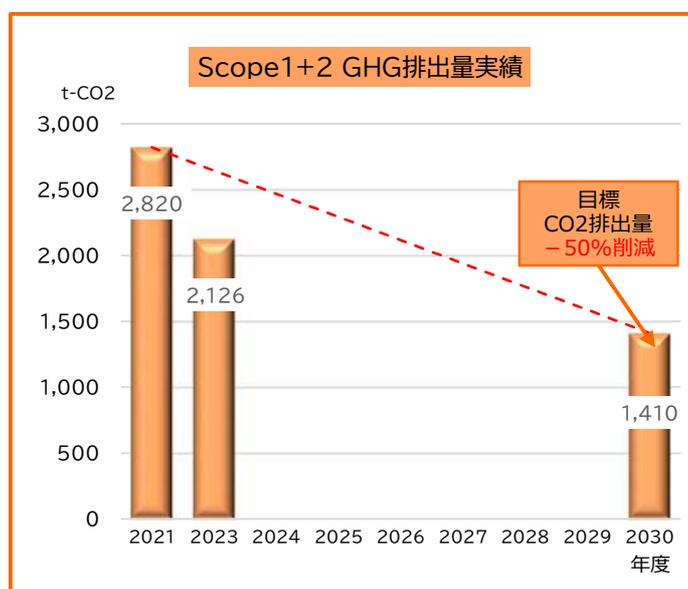
項目	主な活動内容(2023年度)	評価	次年度の活動内容
CO2 排出量	電気使用量	○	2023年度の活動内容と同じ
	軽油、ガソリン使用量	○	※2030年度までの目標 ・省エネ車の導入 ・低炭素重機の導入 ・次世代燃料の採用
	灯油、LPG使用量	○	

I.【CO2排出量】

2023年度 GHGプロトコルに基づく温室効果ガス排出実績一覧表

Scope、カテゴリ毎のCO2排出量

項目		CO2排出量 [t-CO2/年]	備考
Scope1+2		2,122	2030年度までに50%削減
Scope1	ガソリン (2.32kg-CO2/L)	76	
	軽油 (2.58kg-CO2/L)	1,109	
	灯油 (2.49kg-CO2/L)	3	
	L P G (3.00kg-CO2/kg)	1	
Scope2	電力消費	933	
Scope3		41,809	2030年度までに30%削減
カテゴリ1	購入物品サービス	485	
カテゴリ2	資本財	395	
カテゴリ3	燃料エネルギー関連活動	297	
カテゴリ4	輸送 (上流)	678	自社手配の運搬
カテゴリ5	廃棄物	18,150	
カテゴリ6	出張	8	
カテゴリ7	通勤	111	
カテゴリ8	リース資産 (上流)	0	該当なし
カテゴリ9	輸送 (下流)	1,548	取引先手配の運搬
カテゴリ10	販売製品の加工	2,403	原料チップ、金属、有価プラ
カテゴリ11	販売製品の使用	17,734	RPF(固形燃料)、燃料チップ
カテゴリ12	販売製品の廃棄	0	
カテゴリ13	リース資産 (下流)	0	該当なし
カテゴリ14	フランチャイズ	0	該当なし
カテゴリ15	投資	0	該当なし



クリーンシステムグループでは、2023年9月にSBT認定を取得し、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の削減目標を定め、積極的に取り組んでおります。

弊社の具体的な取り組み内容は次のページに記載してあります。

SBT認定取得 =CO2削減目標に向けての弊社の取り組み=

SBT(Science Based Targets)認定とは

「地球の気温上昇を産業革命前と比べて1.5℃未満に抑える」というパリ協定で掲げられた目標に対し、弊社が設定したGHG排出量の削減目標が科学的に整合しているとして認定されたものです。

山形県内に本社を置く会社としてはまだ数少ない認定取得となりました。

2018年度にそれまで取り組んできた事業活動やCSR活動をSDGs活動として定め、2021年度にはエコアクション21認証に取得、そして2023年度にはSBT認定、CDP質問書への回答に取り組みました。

最近では、異常気象による自然災害が毎年のように発生しており、この山形においても決して他人事ではないと実感しています。

温暖化を食い止めるためにも、少しでもカーボンニュートラルに向けた取り組みに参画し、山形の環境事業者として社会的責任を果たし、積極的に地域の持続可能な発展に貢献してまいります。

弊社では「守ろう、地球。創ろう、未来。」というスローガンのもと、持続可能な事業活動をさらに強化し、社会のためにそして地元である山形県のために、国際的な基準の目標設定および情報公開を行い、地域の持続可能な発展に貢献していきたいと考えております。

Scope1

省エネトラック・自動車の導入推進
水素/電池/ハイブリット車など



低公害車への入れ替えを随時行っております。
導入状況は19ページをご覧ください。

低炭素重機の導入
電動式重機/水素燃料/バッテリー式など

低炭素型
建設機械



まだ日本は、軽油を使用した重機が多いのですが、欧州ではバイオ燃料等を利用した次世代重機への取り組みが進んでおります。
低炭素重機の情報収集を継続的に実施。

GTL燃料等の次世代燃料の採用



営業・総務等で使用している普通車両は、電気自動車や燃費のよいハイブリット車両へ切替しております。
本社には2か所に電気自動車用の充電設備を完備しており、電気自動車への切替も可能な状態です。

Scope2

再生可能エネルギー電源への切り替え

再生可能エネルギーとは(一例)



バイオマス発電

水力発電

風力発電

地熱発電

Scope3

自社から排出する《二次処理含む》廃棄物の処理方法を精査する

例)処理優先を再確認する。

RPF>焼却

オガツ粉>原料チップ>燃料チップ>焼却



輸送距離を抑えるため、製品及び処分物は出来る限り地産地消を目指す



購入品の切替

長距離輸送についてはモーダルシフトなど低炭素輸送を検討する

LCA/CFP製品の購入を優先する

取引先に対してGHG排出削減目標を設定することを促す

